

23年産水稻いもち病予防の徹底に向けて、「発生予察と防除チェック」および「的確な茎葉散布」を必ず行いましょう!

### 第三段階

## 発生予察と防除チェック

#### 早期発見のチェックポイント

- 防除所・農業試験場・普及センターからの発生予察情報（ブラスタム）を参考にした。
- 幼穂形成期5日後ころ、いもち病の発生しやすいところを重点に、下葉を主体に水田内を見歩き調査した。
- 調査は水田一筆につき圃場内の1畦につき10m、それぞれ離れた場所4カ所を見歩きして実施した。



葉いもち病斑



#### 防除のチェックポイント

##### <第1、2段階>

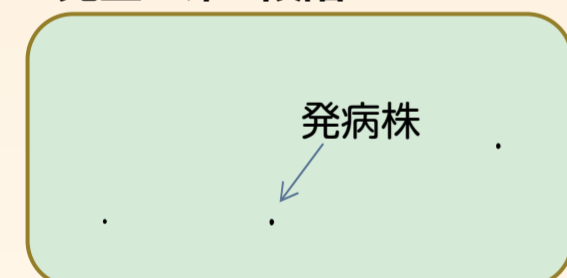
- ベンレート水和剤を使用した。
- 育苗箱施用剤または水面施用剤を使用した。

##### <第4段階>

- 葉いもち病斑を見つけしだい速やかに防除した。
- 発生確認後、ただちに防除できない場合は、発生部を中心に刈り取り搬出した。

## 茎葉散布開始時期を見逃さない

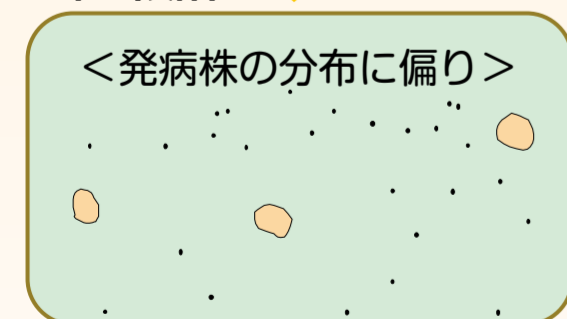
##### <発生第1段階>



発見はほとんど不可能

ブラスタムの感染好適日出現から約1週間後の下葉に注目する

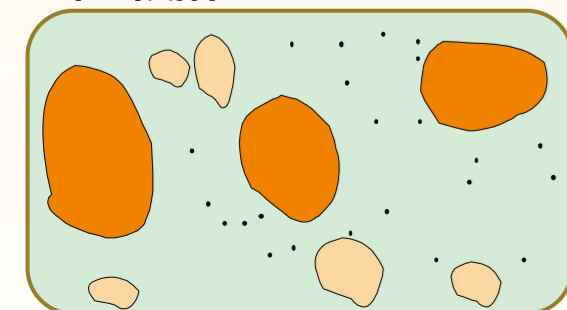
##### <第2段階>



- 発病株率数%~10%程度。病斑数は少ない。
- 水田内の見歩き調査で発見可能

ここでただちに茎葉散布を開始

##### <第3段階>



畦からでも発見可能

茎葉散布を開始しても手遅れ

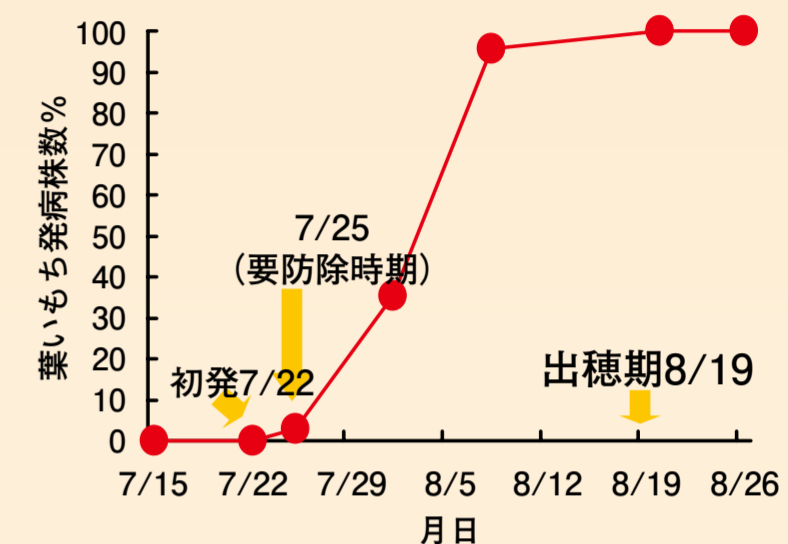


### 第四段階

## 発生予察で葉いもちの病斑を見つけたら直ちに茎葉散布する

- 葉いもちの発見が遅れば遅れるほど致命傷。
- 葉いもちを発見してから防除が遅れると致命傷。

- 葉いもち病が見えない場合でも近隣で発生が確認されたら速やかに防除する。
- 防除を委託していたりして、ただちに防除できない場合は、発生箇所とその周辺を出来るだけ広く刈り取り搬出するとともに、できるだけ早く防除する。
- 種子消毒と育苗箱処理や水面施用の実施で、葉いもちが発生していない場合は、基幹防除まで待つて良い。



初発確認から要防除時期までの期間が、わずかしか無い場合があるので十分注意する。

## 茎葉散布時期の目安

	7月	8月
葉いもち	○	◎
穂いもち	○	◎
茎葉散布	(○)	◎ (○)

・発生予察で葉いもちが見つかったり、近くの圃場で発生したら直ちに防除。  
・出穂期まで1週間間隔で防除する。

出穂期の基幹防除は必ず実施する。

いもち病が拡大しそうなら出穂1週間後に追加防除する。その後も拡大しそうな場合は、さらに追加防除。  
(収穫前日数の適正使用基準を守る)

○=発生に応じて実施

◎=必ず実施する防除